

今号の「クローズアップ」は、品川区の町会・自治会活動のコラボレーションで地域元気を実現している事例を紹介します。

クローズアップ！Shinamon

品川区町会連合会長の高林正敏氏を尋ねました。高林さんは南大井第四町会長で、地域の諸団体に幅広く関わっております。今回は特に、地域の連携や協働するコツについてお話を伺ってきました。



【5年後の町会・自治会】

品川区の町会・自治会（以下「町会」）加入率は約60%ではあるが、それでも都内では高い加入率である。それは品川区ではマンション建設などにあたり町会加入を区が強く指導しているなどの協力もあると思う。5年先の町会は人口ピラミッドから考えてもさらに高齢者が多くなり、町会としては危機感を感じている。現在の町会を担っている人たちが高齢化していく中で、健康であることも必要だが、構成員の若返りも必要である。

【まちの人々をつなげる】

地域のつながりをつくっていくには、まず皆が仲良くなることだ。清掃活動などは、とかくやる事そのものが目的になってしまうが、まちの美観は犯罪を抑制するだけでなく関係を深めるという目的もある。行事や活動はあくまでも目的を達成する手段。5年先をどういう風にするかを考えていく中で、まちの人のつながりは大切。盆踊り、運動会、防災訓練などは地域のつながりを作るきっかけとなるので、一つずつやっていくことが重要。参加者に行事を楽しんでもらい、つながりを深める。魅力のある行事には人が集まり、つながることで顔見知りを作り、防災にも役立つ。町会だ



けでなく、町会内の小中学校に参加してもらうなど連携を助け、皆が協力するということが必要。南大井第四町会は平成10年から地域清掃を行っており、今でも続いている。40人近い方々に加え、近隣のさわやか信金や城南信金、朝日新聞の配達所など企業も参加することで連携が広がってきている。地域の人々と企業、商店が協力して地域をきれいにすることで犯罪抑止にもなっている。声をかけていくことが新しい声かけを生み、拡がりを見せ、お互いに誘い合うようになる。丹念に声をかけて積み上げていくことが大切であり、清掃などのイベントに参加した人には必ず次の予定などをお知らせすることで、更なる参加や拡がり期待できるようになる。

【ふるさと作り】

小さい子どもがいる家庭は町会の行事などに出てくることも多い。少し大きくなった中高生はあまりそういうことに参加しない時期かもしれないが、幼い頃町会などで過ごしたことがある子どもは将来必ず町会活動や地域に戻って来てくれるはずだ。そういった意味では小さい子どもに町会活動の中で一緒に清掃する機会を与えることが大切。地域貢献や社会貢献は体験していくことで身に沁みついていく。東京に大雪が降り積もったときに甲子園出場を果たした小山台高校の球部員が、率先して商店街などの雪かきを行ったとのことだ。

【町会・自治会への加入】

町会への加入ありきではなく、地域のつながりの結果が町会加入という形になる。不幸な出来事であった東日本大震災から3年が経過したが、地域のつながり、絆、町会への関心が高まるきっかけとなった。マンションには若い人も多いが、お祭りをやっていると「来てもいいですか？」と聞いてきたりする人もいる。少しずつ出てきてくれる人もいるので、共同作業などを一緒にやるなどしていくとよりよい。



町会内の小中学校PTA役員を町会の活動に取り込むようにもしていきたい。マンションへのアプローチは難しいが、マンションに入居している人すべてが町会に加入したくないと思っているわけではない。また、町会費の集金が大変だが、例えばマンション一括で多少町会費を安くして年間1回でお支払いただくとか、工夫をすることもできる。

【災害時の助け合い】

これからは自分だけよければいいという時代ではない。それをよく理解してもらえるキーワードは、やはり防災だ。いざという時には、自分ひとりだけでも、行政頼みでもどうにもならない。近隣の共助が一番有効だということをしっかり話し合っていていただくことが大切。防災意識には実際にやってみることでわかることもある。例えば防災訓練でトイレの設置など、できなくてもやらせてみる。うまくできなくてもやったことで、訓練が必要だということに気付く。また自然災害は避けることはできないが、それに伴う火災などは地域の絆や協力で減災することはできる。そういったことへの理解をしていただくやりとり、コミュニケーション作りが大切。個人情報取り扱いで災害時に助ける方などの情報が集めにくいということはあるかもしれないが、災害時に助ける方については、詳細な個人情報が全部なくてもできるはずだ。

【高齢者への対応】

防災などの面でも、いざという時、外に出られないお年寄りなどを助けるといっても普段からやっていないとできない。だからお年寄りに日常的に声をかけるなどのつながりとともに、防災訓練をやっていくことも重要。こういった助け合うといった精神は損得を考えていたらできないことではない。健康であるなら、何か人のために出来るのではないかな？南大井第四町会では、町会の活動の一つとして高齢者クラブ豊寿会がおにぎりの会という食事会を毎月開いている。食事会に来られない人には、訪問ボランティア・お元気でサービスなどの仕組みで声掛けを行っていく。また民生委員の見守りも連携をするという仕組みで、それぞれの団体が連携・連動している。

【お話を伺って感じたこと】

トップが率先して先頭に立って動いていらっしゃると思いました。リーダーが動けば周囲も動いていきます。町会・自治会の未来に期待です。【杉本】

八潮自治会連合会の八潮まつり



品川区では13の地域で毎夏区民まつりが企画され、それぞれ多くの団体が協働して盛り上げています。

八潮地区では、毎年7月3連休の初日、2日目に八潮公園多目的広場で開催しています。

八潮パークタウンが誕生して30年。「ふるさと八潮」のまちづくりを目指した八潮まつりは、巣立った子どもも親となり子どもを連れて帰ってきます。

まつりの実行委員は自治会連合会、各自治会、青少年対策八潮地区委員会、品川区防災協議会八潮地区協議会、八潮交通防犯協議会、品川八潮睦会、煙火師、品川区柔道整骨師会、品川総合福祉センター、八潮学園生徒会・ボランティア、八潮学園PTA、八潮児童センター、こみゅにていぶらざ八潮協働推進室。模擬店出店団体は、各自治会、地区委員会、八潮少年野球クラブ、ICY（インド料理）、八潮北PAM（PTAOB）、品川総合福祉センター、シルバー人材センター、八潮学園生徒会、こみゅにていぶらざ八潮協働推進室、東日本大震災復興支援の福島県物産展では、えがお福島、株会津物産、ヤマサ商店、更に活動を支える団地内診療所・事業所、大井競馬場など37団体の協賛も得て2日間活気にあふれた八潮まつりを開催しています。「FMやしお」での実況放送、フィナーレでは「打ち上げ花火」夏の八潮の夜空高くに色とりどりの大輪の花を咲かせます。「ふるさと」に戻ってきた子どもたちも大喜び、八潮を愛する仲間たちの想いがたくさん詰まった「八潮まつり」です。

自治会活動は、大変苦労も多くしんどいと感じる時もあります。しかし、地域を愛する仲間とともに活動（協働）できる「今」を楽しみながら、自分たちが築いてきた30年間の歴史をこれからも仲間とともに引き継いでいきたいと思います。

【八潮】





自治会とほっとサロンとの協働で・・・



大森駅前住宅自治会の「ほっとサロンゆうゆう」は、6年前に品川区の高齢福祉課が招集した会議が始めるきっかけとなった。自治会や色々な団体と協働して地域の高齢者への活動を進めている。ほっとサロンは、毎月7～8回開催し、地域のお年寄りが楽しみながら参加・交流している。内容は「茶話会」、「体操教室」、「書道・手芸・パソコン・囲碁・将棋」をそれぞれ2～3回程度行っている。事業経費は品川区社会福祉協議会からの助成金と自治会からの支援で運営されている。自治会は、資金のほか、広報やお手伝いというカタチで活動を支えている。ほっとサロンの代表は民生委員の松尾さんで、スタッフ12名とで会を運営している。体操教室は座ってもできる体操を品川トリムからの先生の指導でしている。茶話会では参加者の会話が基本であるが新しい参加者を募るためイベントを行うことがある。住民の中の専門家が音楽や舞踊、講習会（栄養講座・・・）などをする。警察の防犯講話、社会福祉協議会から成年後見人講座などもしたことがある。通常は30人前後の参加だがイベントの時は50人ぐらい集まることもある。在宅介護支援センターのさくら会からケアマネージャさんがきて色々と相談にのることもしている。取材に尋ねた時には参加者の懇談後に皆で歌を合唱した。色々な協働でお年寄りが楽しく暮らせる環境作りをしている。【杉本】

今年の「町会塾」は・・・

平成26年2月1日、スクエア荏原で品川区町会塾が開催されました。今年は「町会・自治会のより良い運営に向けて」と題し、合同会社フォーティR&C代表の水津陽子氏の講演を聴きました。お話は、多岐にわたり実情や課題の整理ができました。

以下主な内容を紹介します。

- *町会・自治会の課題認識
- *住民の認識とのギャップ
- *住民のニーズ
- *地域総出・住民ひきつける活動

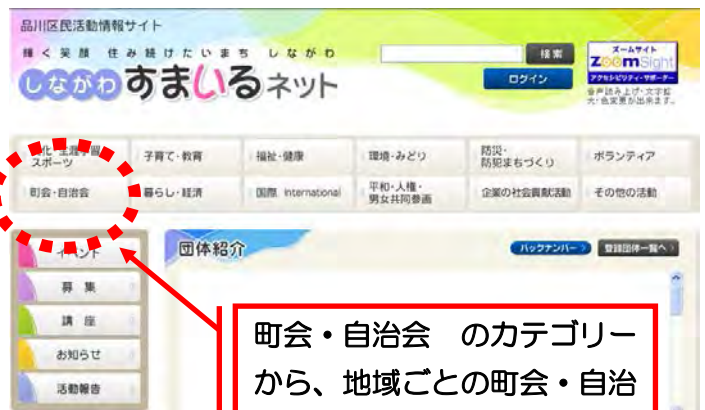
- *参加促す、魅力的な事業
- *地域活動の発展成長に向けて
- *組織・運営管理チェック
- *活動の発展拡大
- *活性化につながる事業計画とは
- *新規会員獲得・加入率アップ
- *参加呼びかけの成功事例
- *会計・決算書について
- *広報誌から情報誌へ



レポートは各町会・自治会に届いています。興味のある方は、お住まいの町会・自治会に尋ねてみるか、地域活動課 地域支援係にて入手できます。

しながわの町会・自治会活動の情報発信！

しながわすまいるネット
<http://shinagawa-smile.net/>



町会・自治会 のカテゴリーから、地域ごとの町会・自治会を選ぶことができます。

品川区における区民活動団体を集めたインターネットの情報サイトです。

現在、町会・自治会のホームページに情報の入力を進めているところです。町会・自治会の活動報告や募集、お知らせを発信することができます。IDとパスワードを取得した町会・自治会は独自に記事を投稿することができるようになります。ホームページやブログ投稿経験者はお住まいの町会・自治会とコンタクトをとってみてください。



操作講習会は年に6回開催。毎週月・木曜日の午後には、こみゆにていぶらぎ八潮（八潮5-9-11）で相談や個人の講習を行っています。

問合せ：しながわすまいるネット運営委員会
web.smile@live.jp



第6回社会貢献活動しながわ 2014 開催



平成 26 年 2 月 22 日（土）きゅりあんで開催されました。区内の地域で活動している 62 団体が一堂に会して団体交流を図りました。今年のテーマは「分かり合おう！広げよう！」で、協力・協働するには先ず知ることからと、団体同士のつながるチカラを強めました。今年度は新たに「前夜祭」を企画し、楽しく、じっくり交流できる機会が好評でした。年々盛んになってきていますが、お互いの交流がスマートで熟成してきていることを実感しました。

第 39 回品川区消費生活展 開催



平成 26 年 2 月 15 日、16 日に「かしこい消費者力～できることから守ってみよう～」というテーマで、きゅりあんにて開催されました。初日は大雪でしたが、両日で 2,000 名の方が来場されました。消費生活展は費者団体（グループ和・リフォーム OB 会・品川区婦人学級連合会・品川区消費者の会・品川生活学校）と企業・施設など 15 の協力団体と、今回新たに NPO 法人ライフサポート東京・NPO 法人協働まちづくり・NPO 法人市民後見人の会が参加しました。

平成 26 年度品川区施政方針より一部抜粋

品川区の長期計画後半 5 年を機に再検討され、去る 3 月 11 日広報で案内されました。

「町会・自治会」と「協働」に関連するところ一部紹介します。詳しくは、『品川区長期基本計画【改訂版】』でご覧いただけます。

品川区では地域社会における町会・自治会の意義や役割を改めて評価し、支援を行います。また、様々な活動をしている団体との協働を推進し、NPO などの支援や社会貢献活動を行う企業との連携を進めます。

【地域振興・協働】26 年度予算の主な項目

- 町会・自治会の活動支援の推進…110,319 千円
- 区民との協働を促進「みんなでつくる品川区」…12,914 千円

品川区 協働事業・区民活動助成事業の募集

品川区では「区民提案型」協働事業と地域振興基金を活用した区民活動助成の提案団体を募集しています。

『協働事業』では、地域の課題に対して活動団体の専門性などの強みを活かした事業提案、『区民活動助成事業』では、地域課題や社会的課題解決のために活動している区民団体の事業をそれぞれ募集しています。募集の締切りは平成 26 年 5 月 9 日（金）です。

詳しくは下記までお気軽にお問い合わせください。また区内では、豊かな地域づくりをめざし、区民活動団体が様々な社会貢献活動や公益活動を行っています。品川区はそのような区民活動団体を支援するため、地域振興基金を設置いたしました。地域振興基金への寄付をとおして地域貢献活動を応援しませんか？

問合せ：地域活動課 協働・ふれあいサポート係

☎03-5742-6693 Mail: chikikat@city.shinagawa.tokyo.jp

協働ネットワークしながわ入会方法

「協働ネットワークしながわ」は、どなたでも入れる会員制。施設見学会、学習会、情報交換会などを行っています。社会貢献活動をなさっている方、協働に関心のある方はお気軽にお問い合わせください。

事務局連絡先：地域活動課 協働・ふれあいサポート係

〒140-8715 品川区広町 2-1-36

☎03-5742-6693 Mail: chikikat@city.shinagawa.tokyo.jp

編集責任者：杉本義雄 メールアドレス sugimoto@cts.ne.jp